

ミャンマーへの進出を考えていますが、組織運営などでどのようなリスクがあるのでしょうか。

今回は、ミャンマーへの進出を果たした中小企業が、近年、実際に懸念している「内部環境リスク」について解説します。

主要業務に関連するリスクについて、現地で調達する原材料の品質の問題を挙げる中小企業は少なくありません。

一定の品質を求めて、新たな原材

## 中小企業 海外展開のツボ

料の調達先を探すものの、なかなか見つからないといった悩みも多く聞きます。

また、工場や店舗の火災リスクを挙げる企業も増えてきました。ミャンマーでは、火災が発生した場合、「通報が遅い」「メンテナンス不足により火災報知機が作動しない」「道路が狭く消防車が入れない」「消火用水が足りない」などといった人的

## ミャンマー、原料調達に課題

SOMPOリスクアマネジメント 執行役員 原 敬徳氏  
ERM事業部長 首席コンサルタント

・物的要因も重なり、被害が拡大することがよくあります。

さらに、従業員の人材育成の遅延も、中小企業にとって大きなリスクの一つといえるでしょう。ミャンマーではインドネシアやタイ、ベトナム以上に、品質やサービスの向上、コンプライアンスに関する教育や研修に取り組むことが急務であるといわれています。

近年は、転職を繰り返す「ジョブホッピング」以上に、現地社員の採用が進まないといった問題が顕著になってきました。

そのほか、取引先の貸し倒れや債務不履行、従業員によるデモ・ストライキ、スマートフォンやパソコンからの営業情報の漏洩、原材料や備品の盗難なども、最近の「内部環境リスク」として挙げられます。

中小企業にとって想定される  
ミャンマーの主な内部環境リスク

### 主要業務に関するリスク

調達品・製品・サービスの品質確保、工場や店舗の火災、取引先の貸し倒れ・債務不履行など

### 組織運営に関するリスク

従業員の人材育成遅延、新規従業員の採用難、デモ・ストライキ、情報漏洩、原材料の盗難など

2017年6月14日  
日経産業新聞